

1 みんなが助け合い、健康に暮らせるまちづくり

みんなが困っている人に手を差し伸べ、お互いに助け合い、
住み慣れたまちで、みんなが健康に安心して暮らせるまちをつくります。

1

健康な暮らしの充実

生涯を通じて、心身ともに健康で長寿を喜び、自立した生活を送ることは、誰もの願いです。

このため、医療・保健・福祉・介護などの関係機関が緊密に連携し、健康維持増進、疾病の予防、福祉施設の充実、介護への適切な対応ができるネットワーク構築を推進します。

施策

1

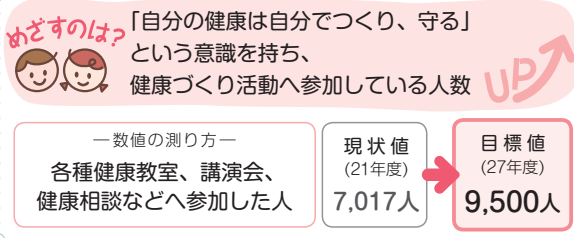
健康づくりの充実

健康づくり課

理想とするのは……

市民のみなさんが、生涯にわたり健康で充実した生活が送れるように、こころと体の健康づくりにつながる、食生活や運動、心身の休養に関する知識や技術提供をきめ細かに働きかけ、「自分の健康は自分でつくり、守る」という住民参画の活動を推進しているまち。

施策の指標



現状・課題

社会環境や食生活の変化などにより、心身の健康を阻害する要因が増えています。また、現代の三大死因である「がん」「心疾患」「脳血管疾患」は、若年からの生活習慣などが関与するといわれており、生活習慣を改善し、心身の疾病を予防する「一次予防」が重要です。

健康で心豊かに生活できるための支援として、安心して子どもを産み育てるための母子保健対策（乳幼児健康診査や健康相談など）、特定健康診査・保健指導、各種がん検診、各種健康教室・相談など、保健対策の充実が求められています。

市民のみなさんからの意見

「保健指導員制度の健康づくりが浸透しているね」
「市民がお互いに健康づくり、生活を応援するような、人につながる健康づくりをすすめよう！」



取組んでいきます!

健康診査・相談などサービス体制の整備

- ・母子保健事業を推進し、安全な妊娠や出産への支援と、健やかな子育てへの支援をします。
- ・死因の約60%（平成20年/がん29.3%、心疾患14.3%、脳血管疾患12.5%）を占める生活習慣病を重点とした予防教室を開催します。
- ・相談・健康診査・保健指導について、市民のみなさんが利用しやすいサービス体制にします。

「生涯健康づくり」に対する意識の高揚

- ・須崎市健康づくり計画「健康須坂ときめき21」に基づき事業を推進。
- ・地域単位での健康づくり活動を支援します。
- ・職域との連携による働きざかりの健康づくり研究会や学校における健康づくり活動と連携をします。
- ・市民のみなさんと協働で健康まつり、自治会単位の文化祭などのイベントを開催します。
- ・保健指導員の研修を充実し、自主活動を支援します。
- ・健康に関するデータを広報に掲載します。
- ・8020運動（80歳で20本以上自分の歯を残す）を推進します。

健康のための運動の普及

- ・健康づくりのための運動の重要性を、広報や保健指導員会、スポーツ団体などの地域団体を通じ、啓発します。
- ・運動を通じ脳の若返りを推進します。
- ・いつでも、どこでも、誰でもできるウォーキングを普及します。
- ・各種健康教室を開催し、自分自身の健康管理への意識を高めます。

健康のための食の推進

- ・食育推進基本計画「須崎市食で健やか計画」に基づいて広報や食生活改善推進協議会、保健指導員会、農業小学校などと協力して、食育を推進します。

こころの健康づくりの輪を広げる活動の推進

- ・自殺に傾いた人や、悩んでいる人に早期に気づき、適切な相談につながるネットワークを構築します。
- ・市民のみなさんを対象にした講座の開催や、企業と連携した研修会を開催し、こころの健康に対する意識を高めます。

施策
2

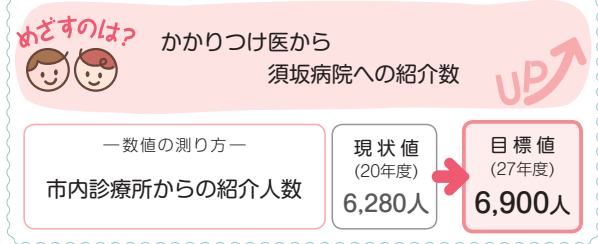
医療体制の整備

健康づくり課

理想とするのは……

医療・保健・福祉・介護のネットワークを構築し、市民のみなさんが、いつでも、安心して、必要な医療を受けることができるまち。

施策の指標



現状・課題

地域で適切な医療サービスが受けられるためには、急性期医療を担う病院と地域のかかりつけ医との連携体制をさらに強化し、安定的な医療を提供できるようにする必要があります。

また、健康づくりから疾病予防、治療、リハビリテーションまでの医療・保健・福祉が連携した、地域医療体制や情報システムなどの整備・確立に努める必要があります。

市民のみなさんからの意見

- 「高齢者の診察に不便を感じている」
- 「須坂病院を地域に根ざした病院にしたい！」
- 「開業医と地元総合病院との連携を、もっと強くするべき！」

めざしていきます！

検診・健康診査の年間受診率（対象者のうち受診者の割合）

検診・健康診査の内容	現状値(21年度)	目標値(27年度)
乳幼児健康診査(3ヶ月～3歳)	90.2%	100%
胃がん検診	10.6%	50%
大腸がん検診	15.8%	50%
肺がん検診	7.3%	50%
子宮がん検診	14.2%	50%
乳がん検診	27.1%	50%
特定健康診査	42.3%	65%
特定保健指導	20.4%	45%

取組んでいきます！

安心できる医療体制の整備

- ・大規模災害、新型インフルエンザなどに、対応する医療体制を整備します。
- ・医療・保健・福祉・介護のネットワーク構築を推進します。
- ・休日、夜間及び救急医療体制の充実・高度化をすすめます。
- ・医療施設の充実をすすめます。
- ・かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局の普及を推進します。
- ・地域医療を守るために、須高三市町村と、医療及び福祉などの関係機関との連携を推進します。

国民健康保険の健全な運営

- ・被保険者に対する疾病予防や啓発を推進し、早期発見・早期治療に努めます。
- ・国民健康保険税の収納率向上に努めるとともに、支払いが困難な場合の相談・指導をおこないます。
- ・国民健康保険税の納税を促し、被保険者の負担の公平性と健全運営に努めます。

福祉医療費による支援

- ・必要な医療を受けられるよう、障がい者や乳幼児などへの医療費を助成します。

難病患者への支援

- ・難病の人の相談支援を充実します。



3ヵ月健康診査

「体重計にのろう」実践の表彰

数値の測り方	現状値(21年度)	目標値(27年度)
累計表彰者数	34人	100人

食育に関する教室への参加

年間参加者数	現状値(21年度)	目標値(27年度)
年間参加者数	3,164人	3,800人

自殺者数

県統計による年間人数	現状値(21年度)	目標値(27年度)
県統計による年間人数	11人	0人

2

社会福祉の充実

身体が不自由になっても、高齢になっても、遠慮なく助けを求める声が出せ、常に地域とのつながりが感じられるようなまち。

助け合いのネットワークが根付いて、「一人ぼっちじゃない」という安心感が得られるまち。

困った人がいれば、当たり前のように手が差し伸べられ、ボランティア活動が盛んなまち。

人情に厚く、ふれあいのまちをめざします。

施策

3

みんなで助け合う福祉

福祉課

理想とするのは……

市地域とボランティアグループがつながり合い、誰もが何らかのボランティア活動に気軽に参加しているまち。

助け合いが当たり前のおこなわれ、感謝の言葉があふれ思いやりに満ちたまち。

施策の指標

めざすのは？



福祉ボランティアの活動状況



一数値の測り方ー

福祉ボランティア活動の
累計参加者数

現状値
(21年度)
1,604人



目標値
(27年度)
1,800人

現状・課題

各自治会の区長や民生児童委員を中心とした要援護者の見守り組織「新・地域見守り安心ネットワーク」や、社会福祉協議会での助け合い推進事業などにより、地域での見守り体制が整いつつある。しかし、市民総合意識調査では、将来ひとり暮らしになったときの生活に不安を感じている方が多く、安心感を持って地域で暮らすという状況には至っていません。

今後は、見守り体制のより一層の充実と、地域に根ざした種々のボランティア活動や市民活動を拡大することによる、地域での助け合いの活発化が求められています。

市民のみなさんからの意見

- 「地域の見守りはよくおこなわれているよ」
- 「社会福祉協議会での助け合い推進事業があるのが良いね」
- 「地域の中で『助けてー』が言いにくい」

取組んでいきます！

助け合い活動の推進

- ・「新・地域見守り安心ネットワーク」を充実し、ひとり暮らしの高齢者や障がい者、要介護者などの見守りを強化する中で、孤立死をなくし日々の暮らしに安心感を与えます。
- ・社会福祉協議会主催の助け合い起こし事業を支援し、「助けて！」を自由に言える地域づくりをすすめます。
- ・人々の善意により、お金をかけない助け合いの実行など、須坂市独自の助け合いの仕組みづくりをすすめます。

ボランティア活動の活発化

- ・社会福祉協議会で実施しているボランティア活動を支援し、誰もが気軽にボランティア活動に参加できるよう体制を整備します。
- ・ボランティアを市民活動として位置づけ、ボランティア活動の拡大をすすめます。

めざしていきます！

「新・地域見守り安心ネットワーク」の取組み

数値の測り方	現状値(21年度)	目標値(27年度)
全自治会のうち、組織し取組んだ自治会の割合	100%	100%

須坂市ボランティアセンター利用

年間延べ利用者数	5,251人	5,800人
----------	--------	--------

読み聞かせボランティア



施策
4

高齢者福祉の充実

高齢者福祉課

理想とするのは……

高齢者が、それぞれの経験と知識をいかしながら、地域の中で生きがいをもって社会参加できる、活力のあるまち。

ひとり暮らしになっても、認知症になっても、相談できる場所が近くにあり、必要な時に必要なサービスが利用でき、住み慣れた地域で安心して暮らせるまち。

施策の指標



住み慣れた地域で安心して暮らせるまち



現状・課題

急速にすすむ高齢化の中で、高齢者の健康増進や生きがい活動、介護予防、生活の支援をはじめ、寝たきりや認知症予防事業などのさらなる充実が求められています。

また、認知症になっても安心して暮らせる地域をめざし、地域住民や関係する団体などが連携して支援する体制を強化するとともに、地域の認知症に対する正しい理解と支援を推進することが重要となってきています。併せて、高齢者の様々な権利を擁護し、生活全般にわたってサポートする体制の確立も求められています。

市民のみなさんからの意見

「行政と地域で、一体となっていく姿勢が必要だね」
「認知症になっても安心して地域で暮らせる社会であって欲しいな」

取組んでいきます！

社会参加活動の支援

- ・高齢者が経験や知識・技能をいかした活躍ができる就業環境づくりや、ボランティア活動参加への情報提供などを支援します。
- ・高齢者がいきいきと生活できるよう、生きがいと健康づくりを推進する生涯学習や自主的団体、老人クラブなどの活動を支援します。
- ・高齢者の地域社会への参加を促進するために必要な、公共交通機関や道路の整備を、関係機関と協議し整備の推進をめざします。

介護予防の推進

- ・自立した生活が送れるよう、知識の普及・啓発や事業の充実により、一人ひとりに寄り添った適切な介護予防サービスを提供します。
- ・高齢者の介護予防・生きがいづくりを兼ね、介護予防サポーターの育成・活動を支援します。

地域密着型サービスの施設整備

- ・要支援・要介護状態となっても、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、**地域密着型サービスの施設整備**をすすめます。

地域包括支援体制の整備

- ・総合相談窓口である地域包括支援センターの周知と、体制の充実。
- ・高齢者を地域で支え合う地域づくりのため、福祉や介護、医療の関係機関と協力し、支援体制のネットワークづくりを推進します。

ひとり暮らしの支援

- ・ひとりでも安心して暮らせるために、安否確認を兼ねた「**安心コール**」や「**配食サービス**」のほか、緊急通報装置の整備をすすめます。

認知症高齢者対策の推進

- ・認知症に関する正しい知識の普及・啓発に努めるとともに、地域における支援体制を構築するため、認知症サポーター養成を推進します。
- ・相談体制を充実し、認知症高齢者とその家族が安心して生活を送ることができるように支援します。

高齢者の権利擁護

- ・高齢者が尊厳を持って豊かに暮らすため、成年後見制度の普及・啓発に努めます。

めざしていきます！

須高広域シルバー人材センター

数値の測り方	現状値(21年度)	目標値(27年度)
須坂市の登録会員数	573人	650人

地域密着型サービス事業所

事業所の登録定員数	109人	200人
-----------	------	------

地域包括支援センター

年間相談件数	2,314件	2,622件
--------	--------	--------

緊急通報装置の設置台数

高齢者人口に対する割合	2%	3%
-------------	----	----

成年後見制度の周知・認知症サポーター養成講座

講座など延べ受講者数	859人	5,000人
------------	------	--------

理想とするのは……

障がいのある人もない人も、みんな同じく、いきいきと安心して暮らせるまち。

地域住民の障がい者に対する理解が深く、地域での就学や就労が確保されていて、一人でも安心して暮らせるまち。

施策の指標

めざすのは？



障害者自立支援法による
障がい福祉サービスを受けている人の数

—数値の測り方—
障害福祉サービス受給者証
累計所持者数

現状値
(21年度)
279人

目標値
(27年度)
330人

現状・課題

在宅福祉及び施設福祉サービスにおいて、障がい者の社会参加、地域生活を支援しています。地域での生活に関しては、市内にグループホームが8か所整備されています。

課題として、福祉サービスの充実、障がい者に対する地域の理解、就労の場の確保、歩道段差解消などバリアフリー化を一層推進する必要があります。

市民のみなさんからの意見

「障がい者にとっては、道が狭く悪すぎる！」

「障がい者福祉事業が少ない」

「支援施設の整備は充実しているね」



ワークハウスわらしべ

取組んでいきます！

地域生活への支援

- ・須高地域障害者支援センターを中心とした相談・支援体制を充実します。
- ・障がい者の社会参加のため、手話通訳者や要約筆記者の派遣により、コミュニケーションを支援します。
- ・日常生活用具の給付などにより、在宅生活の支援をします。

社会参加・障がい者理解の促進

- ・障がい者スポーツ大会や障がい者文化芸術祭を支援し、社会参加を促進します。
- ・生活訓練講座を開催し、社会参加を促進します。
- ・須高地域自立支援協議会を中心に関係機関と連携し、企業に対し障がい者の雇用を働きかけます。

支援費サービス事業の充実

- ・障がい者が必要とする支援費サービス事業を推進します。
- ・グループホームなどでの支援費サービス事業を支援します。

人権尊重、差別をなくす啓発

- ・障がい者の人権尊重と差別をなくすための啓発活動をすすめます。

環境の整備

- ・関係機関と連携し、段差のある歩道を、歩行者に支障がない快適な歩道空間にするために段差解消をすすめます。

めざしていきます！

手話奉仕員養成講座

数値の測り方	現状値(21年度)	目標値(27年度)
累計参加者数	115人	150人

市内企業の障がい者の雇用

雇用者数	134人	150人
------	------	------

グループホーム

市内グループホーム定員数	45人	53人
--------------	-----	-----

障がい者月間にあわせた啓発広報

広報紙記事累計掲載件数	0件	5件
-------------	----	----

歩道の段差解消

工事実施済みの合計距離	1,982m	2,800m
-------------	--------	--------

施策
6

生活困窮者への支援

福祉課

理想とするのは……

生活に困っている人が、気軽に相談でき、相談に対して適切な支援がおこなわれ、誰もが健康で文化的な生活を送ることができるまち。

施策の指標



生活に関する相談支援実施件数



一数值の測り方 年間面接相談実施件数	現状値 (21年度) 122人	目標値 (27年度) 150人
-----------------------	-----------------------	-----------------------

現状・課題

生活に関する相談件数は増加しており、その内容も複雑多岐にわたり、多くの問題を抱える世帯からの相談が増えています。相談ケースや被保護世帯の状況を見ると、借金問題、家庭内暴力、ホームレスなどに加え、精神疾患を抱えるケースの増加が目立ちます。

また、被保護世帯を世帯類型別で見ると、高齢者世帯、障がい・傷病世帯など、自立が困難な世帯が大半を占め、最低限度の生活保障に加え、経済的な安定や自立を促す支援が求められています。さらに、最近では、障がいや傷病を抱える50～60歳代の世帯や定職についていない方、また、居住地のない方からの申請も増えています。

市民のみなさんからの意見

「低所得であっても、地域で生きられるにはどうするかを考えなくちゃ」
「本当に困っている人に、福祉サービスがおこなわれているのかな」



取組んでいきます！

相談、支援体制の充実

・関係機関と連携し、生活困窮者の自立に向けて、適切な相談や支援を充実します。

生活保護の適正実施

・最低生活の保障と、被保護世帯の自立に向け、就労支援をはじめ、実情に応じた支援をすすめます。

めざしていきます！

生活に関する相談・支援

数値の測り方	現状値(21年度)	目標値(27年度)
年間延べ面接相談件数	395件	480件

被保護世帯の自立

保護廃止総数のうち、自立による保護廃止数の割合	30%	40%
-------------------------	-----	-----